

年間第 26 主日

マルコ 9:38-43、45、47-48

イエズス会司祭 小暮康久

今日は、「子どものためのミサ」ということなので、神父さんのお説教もみんなに向けてのお話にしたいと思います。どんな話をみんなにしようかと、今日の聖書を読んだとき、神父さんはちょっと「困ったなー」と思いました。どうしてかということ、今日の聖書では、なんだか怖い話をイエス様がしているからです。

「もし片方の手があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。」

「手を切り捨ててしまいなさい」なんて、こんな怖いことイエス様が言うかなあ、優しいイエス様がこんな怖いこと言うはずがないんじゃないか…。でも今日の聖書の中で、イエス様ははっきり言っている。どういうことなんだろう。ちょっと怖い話だけと、イエス様が言うのだから、きっとそこには大切な意味があるに違いない。神父さんは、イエス様にお祈りして、そして考えました。そうしたら、イエス様から大切なメッセージをもらったような気がしました。今日は、そのことをみんなにお話ししたいと思います。

「もし片方の手があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。」

ここで「つまづく」とあるけど、みんなは「つまづく」ことある？「つまづく」ってどういうこと？（誰かに聞いてみる）そう、歩いていて、こう段差とか石とかに足が引っかかってこう、転んでしまうことだよ。神父さんは今 40 歳だけど、昔はつまづくことなんかなかったのに、本当にたまーにだけど、疲れているときとか、あれって、つまづくことがある。ちょっとショックだけど。歳とったのかなーって。（間）

つまづくとはそこで歩くのが止まってしまいます。大きく転べば、怪我をするし、痛いなーと思ってしばらく歩けなくなってしまうこともある。つまり、ここでイエス様が言っている、「つまづかせるもの」というのは、僕たちが神様を信じて、神様に向かってしっかり歩いているとき、「何か」につまづいて、神様に向かって歩いていくことを止めさせちゃうもの、それが「つまづかせるもの」ということです。それを今日の聖書の中では、「もし」という形で、わかりやすいように、僕たちにとって大切だと思える、手とか足とか目とか、そういう本当に大切なものでたとえているということです。だからここで、イエス様が手とか足とか目とかの話をしているのは、大切なもののたとえということなんだ。そんなに大切なものであっても、もしそれが神様に向かって歩いていくことを止めさせちゃ

うものだったら、僕たちはそれを捨てたほうが良いとイエス様は「たとえ」を話しているということです。

そしてもう一つ、

「両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。」

ここで「地獄」というまた怖い言葉がでてきているけど、「地獄」っていうと、漫画やアニメでは、怖ろしい悪魔とか怪物が出てくる場所だね。でも、そういう漫画に出てくるような悪魔や怪物が本当にいるかどうかよりも、もっと大切なのは、「地獄」っていうのは「そこには神様やイエス様がない」ということなんだ。「やさしくてあったかい神様やイエス様から本当に本当に遠く遠く離れてしまった場所、大好きだった人も一人もいない、とっても寂しくて冷たい場所」それが「地獄」ということなんだ。だから、神様から僕たちを引き離して、そんなところに行くようにさせるものなら、それがたとえ手や足や目のように僕たちにとって大切だと思えるものだとしても、それが無いほうが幸せだよという「たとえ」なんだ。

ここで手や足や目と喋っているのが、「こんなに大切なものでも」という「たとえ」ならば、実際、僕たちにとっての「つまづかせるもの」って、手や足や目ではなくて、何かもっと違うものかもしれないということなんだ。

それじゃ、僕たちにとって「つまづかせるもの」って何だろう？（間）例えば「ゲーム」も、もしかしたら僕たちにとって「つまづかせるもの」になってしまうかもしれないと神父さんは思います。

みんなの中にもゲームが大好きな子もいるかもしれない。神父さんもみんなと同じ年頃の時は、ゲームが大好きでした。みんなは見たことないかもしれないけど、神父さんが子供のころは「ファミコン」というのがありました。カセットをガッチャと入れて、（カセットを入れる前にフーっと）。

これ見たことある？（ドラクエ1のパッケージのイラストA4写真を見せる）神父さんが中学3年の時、この「ドラゴンクエスト1」が出たんだけど、それまであんなロールプレイングゲームはなくて、そのドラクエが本当に面白くて、「レベル上げるまで」とか、「あのアイテム取るまで」とか「あの洞窟のあそこを攻略するまで」とか、なかなかやめられないんだ。そうすると「いつまでやってるの」とお母さんにおこられたりして…。

神父さんもやってたから、ゲームは楽しいのは分かるし、絶対悪いものなんて神父さんは思わないけど、あんまりゲームに夢中になりすぎて、そのことばかりで頭がいっぱいになってしまうとどうだろう？心配して「もう止めなさい」と注意するお母さんの言うこ

とを「うるさいなー」と思って聞かなかったり、お兄ちゃんや弟とゲームの順番でケンカになったり、宿題後回しになったり、…。もしかしたら、夜遅くまでゲームをやりすぎて、疲れて眠くて、朝寝坊して、ミサに行かないなんてことにもなるかもしれない…。

ゲームは時間を決めて、少しやるなら「楽しみ」としていいかもしれないけど、夢中になりすぎて、そのことばかりで頭がいっぱいになるほどになってしまったら、ゲームはみんなの勉強や、体の健康や、そして家族のみんなとの仲を「悪く」させてしまうものになってしまう。そして「ミサに行ってイエス様の体を頂いてイエス様と会うよりも、ゲームをするほうが大切」ってなってしまうたら、本当にみんなにとって「つまずかせるもの」になってしまうということです。

そんなにまでなってしまうたら、お母さんが「もうゲームは捨てちゃうよ」と怒っても当然ということだよね。お母さんはみんなのためを思って、捨てたほうがいいと考えるわけです。今日のイエス様の言葉も同じです。イエス様はみんなのためを思って、ちょっと怖いたとえだけど、わかりやすいように、たとえ手や足や目のように大切なものであっても、それが「つまずかせるもの」になってしまうなら、「捨てたほうがいい」と話してくれているのです。

みんながこれから大きくなっていくにつれて、「ゲーム」ではなくて、何か他の別のものが「つまずかせるもの」として、みんなの目の前に現れるかもしれない。だけどそんな時、今日のイエス様の言葉を思い出してほしいんだ。「神様やイエス様から自分を引き離すものは、捨てよう」と心に決めることができたなら、イエス様はとても喜んでくれると思います。だってそれは、みんなの本当の幸せを思ってイエス様が言っていることだからです。

今日のごミサの中で、イエス様のみんなを思うその心を、みんなの心の中に大切にしまっておくことができるように、そのお恵みをイエス様にお願いしましょう。